ＥＳＤＧｓ通信104　20210220　学校だよりに見るＥＳＤへの道のり（２）

皆さん、お元気ですか。先日のＥＳＤＧｓ通信への様々なコメントをありがとうございまし

た。一部抜粋で紹介いたします。

・学校だよりの巻頭言の整理、お疲れ様でした。あらためて当時の八名川小学校でのご活躍

ぶりが伝わってまいります。手島先生が最後に送り出した６年生は今年、もう中学校を卒

業するということでしょうか、感慨深いものがおありになることとお察しいたします。私

がお伺いして同校のSDGsへの取り組みを取材しブログを綴ったのはご退職の直前のこと

でございましたが、手島先生のリーダーシップとすばらしい取り組みに感激したのを昨日

のことのように覚えております。その後も、現役のころと変わりないくらい、未来のため

に、子どもたちのために、ご尽力していらっしゃるご様子に心打たれております。どうぞ、

これからも末永くご活躍ください。

・今回の記事も、興味深く拝見させていただきました。長く続けてこられている歴史を感じ

るとともに、「発信すること」「継続すること」の大切さをあらためて感じました。学校

だよりの記事では、保護者や学校の先生方への感謝、八名川ファミリーと　いう一体感と

協働、誰ひとり取り残さない、学び心に火をつける、笑顔、楽しさ、オリパラツアーや八

名川祭りでの体験等々、手島先生の情熱や思いが伝わるメッセージを感じました。トップ

のリーダーシップ、関係者とのベクトル合わせ、パートナーシップ、感謝の気持ち、情熱

や思いの強さの大切さも感じながら拝読させていただきました。

・２０１４年１０月の３９号が楽しみです。あのときは、本当にありがとうございまし

た。「困ったときの八名川小、手島校長」、統括官付で合言葉になってました。

　次の文は、このお一人への手島からの返信です。そして、「学校だよりに見るＥＳＤへの

道のり」（２）へのガイダンスでもあります。

・お忙しい中にもかかわらずこのようにお心のこもったお便りを頂戴し、とても光栄で

す。あの時に、お父様が学校の先生だったことや、そのお父様が夢見ていらした教育の

姿を、八名川小の子供たちの姿に重ねて喜んでくださったこと、今でもうれしく思い出

します。先日送らせていただいた学校だよりは、私の取り組んできた41年間の教育活動

が八名川小で集大成を迎えていたころだったように思います。手島は愚図で、堂々巡り

を重ねていることもばれてしまうかと思いますが、そこにも価値があるのかもしれませ

ん。

　今日も日本ＥＳＤ学会の大会があり、優れた研究や理論をたくさん伺い、とっても勉強

になりました。しかし、それらをすべて当てはめても実際の教育は成り立ちません。一

人一人のこどもに適した学び方があるように、その学校の依って立つ風土や歴史、地域

性、その時々の構成員一人一人の特性やその組み合わせ、教育行政の動向等々が複雑に

絡み合い、学校教育も時間をかけて育つのだと思います。もちろん理論も人とのご縁も

欠かせません。そして、ここには書ききれない様々なドラマも多々あります。学校だよ

りは、保護者や地域、あるいは職員に向けた発信ですが、一面では、その時々の成長の

記録でもあります。今回もその成長記録フィルムを逆回しに回しながら保護者や地域そ

して学校や子どもたちにどのような方向付けをしようとしていたのかもご覧いただき、

ＥＳＤの学校づくりのヒントを見つけていただけたら幸いかと思っております。

皆様、希望の春がめぐってくるのを楽しみに、一層ご自愛ください。　　　　手島利夫

今回の送信分の見出しです。添付したＰＤＦからご覧ください。

また、手島のホームページ新着情報からもご覧いただけます。

<https://www.esd-tejima.com/newpage6.html>

**②　2016年11月62号「ＰＴＡが文部科学大臣賞受賞」から４８号「セネガルの遠足」までの15通**

